様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年６月１０日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：２００６～２００８
課題番号：１８４０１０３７
研究課題名（和文）東南アジア諸都市における宗教の活性化と日常生活の再編に関する研究

研究課題名（英文）Research Project on the Revitalization of Religions and Transformation of Everyday Life in the Southeast Asian Cities

研究代表者
小野澤　正喜（ONOZAWA　MASAKI）
筑波大学・名誉教授
研究者番号：９００３７０４４

研究成果の概要：
世界的規模で展開するグローバル化と伝統的な宗教の相互連関を研究目的とした本プロジェクトでは、日常的な宗教実践とその再編が情報メディアを媒介にして、新中間層と呼ばれる社会階層に広く浸透していること、その変化は一国内に留まることなく、宗教集団・指導部と海外移住者も直結させるトランスナショナルなネットワークによって支えられており、宗教的意味世界を内面から揺るがす影響力を孕んでいることが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
２００７年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
２００８年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
年度			
年度			
総　計	12,500,000	3,750,000	16,250,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学　・　文化人類学・民俗学
キーワード：宗教改革運動、宗教実践、日常生活の再編、世俗内倫理、情報化社会、エスニック・アイデンティティ、宗教集団の国際的ネットワーク、宗教的習合の再編

１．研究開始当初の背景

近年のグローバル化の中で、伝統的宗教が再活性化している状況が見られる。その最も先鋭な現れがイスラム原理主義であるが、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教等いずれの宗教においても、同時平行的な現象が散見される。その現れ方で特徴的なことは、表現形態がきわめて多様でありながらも、復古主義的な装いをとりつつ、都市中間層を主要な基盤としていること、さらに在家信者における世俗内倫理体系の再編成の追求や、最新の情報メディアの駆使などが共通していることである。

近年イスラム原理主義等の宗教運動が過激化し、暴力的なテロリズムの方向を強める点が注目されることで、あたかも近代化、工業化、都市化に、宗教全人口が全面対峙・対立しているかの報道と状況分析が行われて

いる。しかし、そうした表層的な現象の基盤をなす当該地域の市民社会では、より本質的な過程、すなわち宗教の近代的再編過程が同時進行している。

従来宗教的実践コミュニティにおいて、集合的に行われてきた儀礼や行事が、大幅に見直しを受け、個人ベースにおける個別的儀礼や行事へと変貌を遂げていることが、一般的に観察できる。その変化の方向性は、物質的な利害関心や現世的利益を追求する世俗化への変化が見られる反面、その対極に原典的原理に基づいた本源的な救済を求める精神的な実践の強まりが見られる。とりわけ最新技術や情報メディアを駆使しつつ、宗教集団の指導部と信者が時空間を超越してネットワークで直結され、日常レベルで宗教原理の問い直しが進められ、日常生活のあらゆる側面のあり方が吟味改変されている。

宗教実践においては、時間軸においても聖なる時間が特定され、儀礼や行事の執り行われる空間も、寺院や教会等に限定されており、俗なる時空間において宗教的意味の付与は希薄であった。しかし現在進行中の世界規模の変化を前にして、そうした宗教的聖性を外部から破砕し、日常生活のあらゆる局面において聖性そのものが問題化している。こうした外在的な変化を伴う宗教的精神世界の改変により、特権視されてきた宗教集団、とりわけ指導者や僧侶集団のあり方も根本的に問い直されつつある。

２．研究の目的

本プロジェクトでは東南アジアの諸都市で進行しつつある上記のような変化を、各地域、宗教集団の調査研究実績のある人類学研究者を組織し、3 年間にわたる共同研究を通じて解明することを目的にしている。

上座仏教、イスラム教、キリスト教、華人系大乗仏教等における動態を共通の問題意識とし、宗教人口の日常性に迫る調査研究をめざしている。そのため、各地域における長期の現地調査経験をもつ研究代表者、連携研究者、さらには研究協力者が一丸となって、それぞれの研究ネットワークを駆使して、新たに生じている現象を効率的かつ詳細に把捉し、研究報告会を通じて情報交換を行い、国別・社会別の偏差と共通性を解明する。

初年度の調査研究は、各国の首都圏の各宗教組織の中心から、トップダウンの傾向を持って進められつつある宗教の再編、活性化の動きの全体構造の掌握に力点を置く。具体的には、調査対象地域を東南アジア諸都市の首都圏に定めると共に、地方都市との国内的ネットワークを通じてトップダウン的変化がどこまで浸透しているかの調査を進める。

２年目の調査では、在家信者とその周辺の人々における日常生活レベルの変化に調査の力点を移す。初年度に得られた知見を参照しつつ、生活現場で生起するミクロかつ微細な変化と、個人から集団あるいは宗教組織指導部へという、ボトムアップの動きの背後にある相互連関に着目した調査を行う。

最終年度の３年目は、各宗教組織の外延と多元的共存の実態、さらには宗教集団の国際的ネットワークの展開状況を個別に検討する。

以上のように、調査の焦点を、3 年間にわたって、首都圏と地方における相互関係・相互連関を中央から照射し、次に個人から宗教集団・組織へと移行させ、最後にその複雑性を組織の外部とトランスナショナルな影響力という空間的な広がりの中に位置づけることで、在家信者個人、宗教集団・組織の境界線の内外に着目しつつ、その重層的性格の実態解明に力点を置くこととする。

３．研究の方法

今回の研究組織のメンバー各人は、それぞれの調査対象について、長期調査研究実績を有しており、そうした成果を踏まえた上で、効率的な文化人類学的現地調査を遂行する。具体的には、東南アジア各国別にグループ編成をし、各地域、宗教集団の調査研究を進める。

一方上座仏教、イスラム教、キリスト教、華人系大乗仏教等で多様な展開を見せる宗教の動態を共通の問題意識と枠組みで把握することをめざして、研究会報告と討議、総合的分析を重視する。すなわちグローバルな社会変化を大前提に、国別・宗教別編成により、多様な宗教的精神世界の変容とその重層的性格を把握する方法を用いる。

４．研究成果

３ヵ年にわたる本プロジェクトにより、以下のような研究成果が得られる結果となった。

まず、グローバリゼーションの中での宗教的動態であるが、研究仮説どおり、伝統的宗教の再活性化が空間的な広がりの中で、同時進行することが改めて確認できた。その表現形態は多種多様であり、地域的偏差が大きいものであった。しかし、ここで注目すべきは、個人の宗教的意味・精神世界がグローバル化する近代的な都市空間、さらには首都圏と地方との再編と密接に関わっていることである。

変容する都市空間において、その特徴的な役割を演じているのが、ニューリッチと呼ばれる新中間層である。東南アジアの諸都市全域において、彼らの宗教実践は従来型の在家

信者のそれとは大きく異なる。復古主義的な装いをまといながらも、世俗内倫理の再編および追及、さらには最新の情報技術・メディアを駆使している。こうした姿は、２０世紀後半のいわゆるポストモダン的な世界潮流と連動している。

このように東南アジア諸都市で散見される宗教改革・刷新運動は、都市空間のグローバルな再編・再配置を前提として、近代学校教育をテコに社会的モビリティを高めてきた新しい社会階層の台頭と、密接に連関している。ちなみに新中間層の生活様式や行動様式に関しては、従来民主的意識の覚醒という政治学的観点からのみ議論されることが一般的であった。

しかし本プロジェクトの知見により、新中間層と宗教改革・刷新運動という新しい視座が切り開かれたことになる。首都圏を生活拠点とする彼らの宗教的実践が、果たして従来の宗教集団、あるいは近代的な発展から依然取り残された周辺地域の在家信者に、どの程度影響力を持ちうるのかなど、今後の研究課題も明確にすることができた。

他方、新中間層を基盤とした近年の宗教改革・刷新は、一国内に限定されないトランスナショナルな影響力を誇る点で、非常に示唆に富んでいる。人の移動に伴い、彼らの宗教的実践はインターネットやケーブルテレビなどのメディアを媒介にして、遠隔地であって、宗教集団・組織、さらに指導部とリンクすることを可能にする。ここに新しい在家信者ネットワークの誕生が指摘できる。

彼らの宗教的実践は、極めてバーチャルなメディア領域に浸透しており、信者相互の関係性は従来のそれと比較すると、極めて希薄で排他的かつ個人的ともいえる。いわば閉じられた個人の世界の中から、宗教と個別の関係を結ぼうとする点も、新しい宗教的現象の一つといえる。

要約すれば、本プロジェクトの成果は、伝統的な宗教の刷新が情報メディアを媒介にして、新しい社会階層によって日々実践され、それが一国内に留まらない波及力と浸透力を持っている点を、東南アジア首都圏の全域に再確認できたことである。

なお、研究成果の一部はすでにメンバー個人が論文や学会発表等の形で公表、社会還元を行なってはいるが、本プロジェクトとして総合的成果をプロジェクト報告書として刊行する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２０件）

① 矢野秀武「タイにおける国家行政の仏教活動：仏教式プロジェクトの事例から」『文化』第２７号、2009 年 3 月、1 頁－33 頁、駒沢大学総合教育研究部文化学部、査読無

② 矢野秀武「タイ人が学校で学ぶ仏教：仏教の教科書とその読み方」『タイ国情報』第 43 巻 1 号、2009 年 1 月、34 頁-45 頁、財団法人日本タイ協会、査読有

③ YANO, HIDETAKE "Religion, Thai Studies in Japan, 1996-2006." The Japanese Society for Thai Studies. 1996-2006. August 2008. Thai Studies of Japan. Pp.149-202. 査読有

④ MURAKAMI,TADAYOSHI “Anthropology, Thai Studies in Japan, 1996-2006.” Thai Studies in Japan, 1996-2006. August 2008, Pp.81-147. Thai Studies of Japan, 査読有

⑤ 矢野秀武「仏教書翻訳の可能性　パユット一師の著作邦訳から見たタイと日本」『所報』555 号、2008 年 7 月、41 頁-47 頁、バンコク日本人商工会議所、査読無

⑥ 矢野秀武「タイの宗教を学ぶ」『タイ国情報』第 42 巻 4 号、2008 年 7 月、27 頁-40 頁、財団法人日本タイ協会、査読有

⑦ 矢野秀武「文献資料紹介：日本におけるタイ宗教の研究 1996 年から 2007 年」『文化』、第 26 号、2008 年 3 月、1 頁-37 頁、駒沢大学総合教育研究部文化学部、査読無

⑧ 矢野秀武「変容するタイ上座仏教と修行修行の身体・空間・時間」　『宗教学研究』355 号第 81 巻第 4 輯、2008 年 3 月、44 頁-64 頁、日本宗教学会、査読有

⑨ 高橋美和　「カンボジア 2007 年全国幹部僧侶年次会議を見学して」『愛国学園大学人間文化研究紀要』第 10 号、2008 年 3 月、 55 頁-65 頁、愛国学園、査読無

⑩ 三浦哲也 「東マレーシア・ドゥスン族社会における「家」－社会集団としての特徴を中心に－」、『筑波大学地域研究』29 号、41 頁-52 頁、2008 年 3 月、筑波大学大学院地域研究研究科、査読有

⑪ TAKAHASHI, MIWA “For Safer Childbirth in Rural Cambodia: a view from the nexus between a “traditional” local care system and “modern” medicine.” 国際ジェンダー学会「開発とジェンダー」分科会編『国際ワークショップ「ローカル・ニーズの豊かな世界―「草の根」からジェンダー課題を考える」ペーパー集』2007 年 3 月、129 頁-135 頁、国際ジェンダー学会、査読有

⑫ 矢野秀武「タイにおける仏教の国教明記運動」『国際宗教研究所ニュースレター』第 56 号、2007 年 1 月、8 頁-13 頁、国際

宗教研究所、査読有

⑬ 鈴木伸隆「ミンダナオ島は誰のものか：ミンダナオ島分離独立要求とフィリピン自治問題　1909-1913」第 11 回フィリピン研究大会全国フォーラム抄録集、2007 年、32 頁-36 頁、第 11 回フィリピン研究全国フォーラム準備委員会、査読無

⑭ 鈴木伸隆「米国植民地下における「モロ問題」（1903-1913）と統治方法：モロ州行政官 Najeeb Saleeby を中心に」第 11 回フィリピン研究大会全国フォーラム抄録集、2007 年、64 頁-69 頁、第 11 回フィリピン全国フォーラム準備委員会、査読無

⑮ SUZUKI, NOBUTAKA "*Propesyonal* and *Mangunguma*: Occupational Categories and Their Symbolic Meaning toward the Social and Economic Development of the Philippines." Proceedings of the International Surigao Conference on Cultural Values and Sustainability: Dialogue Between Japan and the Philippines. Area Studies Occasional Paper Series No.3. Graduate School in Area Studies. University of Tsukuba. Pp.119-133. 2007. 査読無

⑯ 矢野秀武「タイにおける学生の宗教生活伝　　統再構築の可能性と限界」『アジア遊学』第 89 号、2006 年 7 月、18 頁-28 頁、勉誠出版、査読無

⑰ 高橋美和「今日のカンボジア仏教寺院と俗人女性―肉親喪失体験をこえて」『アジア遊学』第 89 号、2006 年 7 月、60 頁-71 頁、勉誠出版、査読無

⑱ 三浦哲也「東マレーシア・ドゥスン族の信仰と日常生活」『アジア遊学』第 89 号、2006 年 7 月、110 頁-120 頁、勉誠出版、査読無

⑲ 村上忠良「「国家仏教」と少数派の仏教実践－タイ国北部における仏教の変容」『アジア遊学』 第 89 号、 2006 年 7 月、6 頁-17 頁、勉誠出版、査読無

⑳ YANO, HEDETAKE "The Paradox of Sacred Consumption in the Case of Wat Phra Dhammakaya" Asian Review. Vol. 19. Institute of Asian Studies. Chulalongkom University. 2006.Pp.51-70. 査読有

〔学会発表〕（計１９件）

① 三浦哲也「東マレーシア・ドゥスン族社会における飲酒文化の変容」生態人類学会第 14 回研究大会、ホテル甲斐路、2009 年 3 月 23 日

② 三浦哲也「ローカルとグローバルの狭間で飲む酒－東マレーシア・ドゥスン族の飲酒文化－」、筑波人類学研究会定例会口頭発表、筑波大学、2008 年 12 月 8 日

③ 高橋美和　「カンボジア仏教寺院の社会保障機能」国際ジェンダー学会 2008 年研究大会、立教大学、2008 年 9 月 14 日

④ SUZUKI, NOBUTAKA "Mindanao as Christian Colony: Political Debate in the Philippine Legislature, 1907-1913." 第 8 回国際フィリピン研究学会大会口頭発表、フィリピン共和国フィリピン社会科学評議会、2008 年 7 月 25 日

⑤ 稲村務「カンボジアにおける華僑華人のエスニシティ：１２年前の調査からみた現在と過去―」沖縄民俗学会、琉球大学、2008 年 6 月 28 日

⑥ 高橋美和「カンボジア仏教寺院に住まう俗人女性修行者―ライフコースと家族の視点から―」日本文化人類学会第 42 回研究大会、京都大学、2008 年 5 月 28 日

⑦ SUZUKI, NOBUTAKA "Political Debate over Mindanao Colonization in the Philippine Legislature, 1907-1913." フィリピン共和国キャピトル大学社会科学部・研究エクステンション部門共催講演発表、フィリピン共和国キャピトル大学、2008 年 3 月 24 日

⑧ MURAKAMI,TADAYOSHI "Anthropology, Thai Studies in Japan, 1996-2006." the 10th International conference on Thai Studies. Thammasat University. Thailand. January 15、2008

⑨ 鈴木伸隆「米国植民地統治下のムスリム：フィリピン・ミンダナオ島における定住化とその影響」.文部科学省・ニーズ対応型地域研究推進事業「東南アジアのイスラーム」公開セミナー口頭発表、神戸大学、2007 年 10 月 13 日

⑩ TAKAHASHI, MIWA "Living in a Cambodian Temple in Old Age: a Mode of Retirement from or Renunciation of One's Family?" 5th International Convention of Asian Scholars (ICAS5), Kuala Lumpur Convention Center, 2007 年 8 月 2 日

⑪ 鈴木伸隆「フィリピン立法府におけるミンダナオ島入植関連法案の成立過程：1907 年から 1913 年を中心に」第 12 回フィリピン研究大会全国フォーラム口頭発表、広島学院大学、2007 年 6 月 30 日

⑫ 高橋美和「カンボジア農村部におけるより安全な出産にむけて―「伝統」的養生法と「近代」医療との結節点に注目して」国際ジェンダー学会主催国際ワークショップ「ローカル・ニーズの豊かな世界―「草の根」からジェンダー課題を考える」東京家政学院大学、2007 年 3 月 24 日

⑬ SUZUKI, NOBUTAKA "Assimilation or

Segregation: "Moro" Muslim Integration and Agricultural Colony Project in Cotabato." Mindanao.国際フィリピン研究会議アジア地区日本大会口頭発表、東京グリーンパレスホテル、2006 年 11 月 12 日

⑭ 高橋美和 「現代カンボジア女性のライフコースと宗教実践—寺院止住型修行に関する一考察」国際ジェンダー学会 2006 年研究大会、名城大学、2006 年 9 月 10 日

⑮ SUZUKI, NOBUTAKA "Investment in Education: Its Symbolic Meaning and Value toward Sustainable Social and Economic Development of the Philippines with Special Reference to Mindanao." 日本学術振興会委託研究人文社会科学振興プロジェクト研究事業「千年持続学の確立」口頭発表、フィリピン共和国スリガオゲートウエイホテル、2006 年 8 月 21 日

⑯ 鈴木伸隆「ミンダナオ島は誰のものか？：ミンダナオ島分離独立要求とフィリピン自治問題 1909-1913」第 11 回フィリピン研究大会全国フォーラム口頭発表、中京大学、2006 年 7 月 8 日

⑰ 三浦哲也「東マレーシア・サバ州の政治史:「カダザン族」の民族運動を中心に」, 比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト「アジアの宗教と市民社会」研究会口頭発表、筑波大学、2006 年 6 月 29 日

⑱ 村上忠良「北タイ国境地域におけるシャン仏教の制度と実践」東南アジア史学会第７５回研究大会、名古屋大学、2006 年 6 月 11 日

⑲ 三浦哲也「ボルネオ島・ドゥスン族の村落における社会集団としての「家」」、第 40 回日本文化人類学会研究大会、東京大学、2006 年 6 月 4 日

〔図書〕（計９件）

① 矢野秀武「日本に広まる上座仏教（テーラワーダ仏教）」『宗教と現代がわかる本 2009』2009 年 3 月、210 頁-213 頁、平凡社

② 高橋美和 「出家と在家の境域—カンボジア仏教寺院における女性俗人修行者」『〈境域〉の実践宗教—大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』2009 年 2 月、35 頁-63 頁、京都大学学術出版会

③ 村上忠良「国境の上の仏教—タイ国北部国境域のシャン仏教をめぐる制度と実践」『〈境域〉 の実践宗教—大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』2009 年 2 月、171 頁-234 頁、京都大学学術出版会

④ チャラット・パヤッカラーチャサック、カウィー・イッシリワン著（矢野秀武・訳） 「仏教中学 3 年生（タイ）」『世界の宗教教科書』2008 年 8 月、1 頁-190 頁、大正大学出版会、

⑤ 矢野秀武「解説: タイの仏教科教科書と宗教制度」『世界の宗教教科書』2008 年 8 月、1 頁-13 頁、大正大学出版会

⑥ 矢野秀武「タイにおける宗教教育 宗教の公共性をめぐる多様な試み」『現代宗教 2007』2007 年 8 月、164 頁-189 頁、秋山書店

⑦ 矢野秀武「タイ国王の権力・権威と宗教」『宗教と現代がわかる本：2007』2007 年 3 月、58 頁-61 頁、平凡社

⑧ SUZUKI, NOBUTAKA "Mindanao as Promised Land: A History of Ilongo Christian Filipino Migration to South Cotabato." Junctions Between Filipinos and Japanese: Transborder Insights and Reminiscences. 2007. Pp.68-89. Kultura't Wika

⑨ 高橋美和 「季節のリズム」「復活した信仰」「多様な民族・多様な文化」「厄除けと占い」「暦を彩る祭り」「家族のつながり方」「新しい命の誕生」『カンボジアを知るための６０章』 2006 年 7 月、明石書店

６．研究組織

(1)研究代表者

小野澤 正喜（Onozawa Masaki）
筑波大学・名誉教授
研究者番号：90037044

(2)連携研究者

鈴木 伸隆（Suzuki Nobutaka）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：10323221

村上 忠良(Murakami Tadayoshi)
大阪大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50334016

高橋 美和(Takahashi Miwa)
愛国学園大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：40306478

稲村 務(Inamura Tsutomu)
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号：50347126

矢野 秀武(Yano Hidetake)
駒沢大学・総合研究部・准教授
研究者番号：20422347

ルイ・オーグスタン　ジャン
(Louis-Augustin, Jean)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：30422182

三浦　哲也(Miura Tetsuya)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・研究員
研究者番号：80444040

(3)研究協力者
片岡　樹（Kataoka Tatsuki）
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

益田　岳（Masuda Gaku）
京都大学東南アジア研究所：研究員

櫻田　涼子（Sakurada Ryoko）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・大学院生

山崎　寿美子（Yamazaki Sumiko）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・大学院生

吉田　ゆか子（Yoshida Yukako）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・大学院生